

Title	井上俊教授研究業績
Author(s)	
Citation	年報人間科学. 1996, 17, p. 271-275
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/3982
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

◇ 名誉教授の業績目録 ◇

井上 俊 教授

(昭和十三年九月八日生まれ)

井上俊先生は、昭和四十年三月京都大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程を修了、四十二年三月同博士課程を中退され、同年四月より京都大学文学部助手、四十五年四月より兵庫県立神戸商科大学商経学部専任講師を経て、四十七年十月大阪大学教養部助教授になられました。昭和五十五年十一月同教授に昇任された後、五十九年四月大阪大学人間科学部教授に配置換となり、以来人間科学科コミュニケーション論講座を担当されてきましたが、平成八年四月一日付けで京都大学文学部教授に就任されます。

この間、長年にわたって、人間科学部におけるコミュニケーション論や文化社会学の講義、またコミュニケーション論の演習、実験実習などを通じ、広い視野と高い見識をもって学生の教育と指導に当たられるとともに、大学院人間科学研究科において、コミュニケーション社会学特講・特論、知識社会学特講・特論、文化社会学演習、コミュニケーション論特定研究・特別研究などの授業を担当され、多くのすぐれた研究者の育成に当たられました。また、東北大学、京都大学、九州大学、奈良女子大学、金沢大学、富山大学、熊本大学、京都市立芸術大学、関西学院大学、同志社大学、神戸女学院大学、龍谷大学などの諸大学においても、社会学などの講義を担当されてきました。

先生のご専門はコミュニケーション論、文化社会学ですが、その研究分野はきわめて幅広く、マスコミュニケーション論、ポピュラーカルチャー論、青年文化論、遊びの理論など、広くコミュニケーションと文化をめぐる領域にわたっています。

井上先生の初期の重要な業績である青年文化についての研究は、六十年代後半以後の青年文化の変容に着目されたものですが、青年の価値観、職業観、死生観、対人関係などの角度から、青年の意識と行動にみられる特性を社会的諸条件との関連において説明され、当時の社会学研究者に鮮烈な印象を与えました。さらに、先生の遊びの理論は、文化の根底に「遊び」の要素が存在することを明らかにしたホイジンハ及びカイヨワの理論を発展させ、それまで社会学の重要なパラダイムのひとつであったフランスの社会学者デュルケームの聖一俗理論を、聖一俗一遊という三元理論へ展開したものであって、その後の日本における文化研究の重要なパラダイムとなりました。先生のこれらの業績に対して、昭和五十二年、優れた社会学者の業績に対して与えられる城戸賞が授与されております。

また、井上先生は、コミュニケーション社会学や社会心理学の基礎理論の確立において大きな業績をあげられるとともに、他方で、マスコミュニケーションの動態や具体的な文化現象について、多数のすぐれた研究を行ってこられました。特に、従来の社会学がそれまで十分に光をあててこなかった大衆文化・民衆文化を、理論的かつ実証的に考察された先生のマスコミュニケーション論およびポピュラーカルチャー論の業績は、学術論文のみならず、著書、編著書のかたちでまとめられ、今なお多くの社会学者、文化研究者に強い影響を与えております。

さらに、井上先生は、近年、日本においてこれまで未開拓であったスポーツ社会学研究の分野において、その推進者としての活動を

開始されており、スポーツとマスメディアとのかわりについての歴史的研究や、伝統武術の近代化などについて多数の研究業績を生み出されております。

井上先生の活動は、国際的な領域にも幅広く及んでおり、昭和五十二年四月より二年間、米国イリノイ大学アジア研究センター客員助教授を務められ、当地で大学院学生を中心とした指導研究にあたられたのを始め、人間科学部においても、多数の留学生教育を担当されました。また、日米の研究者を軸にした「近代日本の伝統の発明」への参加を始め、国際的な学会やシンポジウムなどの参加・報告も積極的に行ってこられました。

学会活動においても、日本社会学会誌編集専門委員、日本社会学会研究活動委員会委員、日本社会学会理事、関西社会学会委員、などを歴任されました。特に平成三年、社会学と体育学の研究者の学際的学会として新たに設立された日本スポーツ社会学会の初代会長に選出され、この分野の発展に大きく寄与されました。現在も、日本社会学会庶務理事、関西社会学会常任委員として、日本における社会学の発展のために活動を継続されております。大阪大学内においては、人間科学部図書委員長や人間科学部紀要編集委員長などを務められるとともに、学生生活委員会委員、大学審議会委員会委員、開放講座運営委員会委員、図書館委員会委員、制度委員会委員、入学試験委員会委員、入学試験制度委員会委員、教育課程等協議会委員、自己評価委員会委員、評議員、全学共通教育機構教育方法研究部長などを務められ、大阪大学の運営と発展に多大の貢献をされ

ました。

このように、井上俊先生は、まさに日本のアカデミズムにおける重鎮とよぶに相応しい実績を備えた方でいらっしやいます。同時に、社会学者のみならず知識人一般にとって、同時代の注目すべき一人として現在形で活躍されている研究者でいらっしやいます。そうした方とこれまで同じ時間、同じ場所を共有できたことは、我々皆にとって僥倖であったと思います。

主要業績

〔著書〕

- 『死にがいの喪失』筑摩書房、昭和四十七年
『遊びの社会学』世界思想社、昭和五十二年
『遊びと文化―風俗社会学ノート』アカデミア出版会、昭和五十六年
『悪夢の選択―文明の社会学』筑摩書房、平成四年

〔共著・編著〕

- 『テレビ番組論―見る体験の社会心理史』（共著）、読売テレビ出版局、昭和四十二年
講座コミュニケーション／コミュニケーション思想史』（共著）、研究社、昭和四十八年
『動詞人間学』（共著）、講談社、昭和五十年
『現代社会学入門・第2版』（共著）、有斐閣、昭和五十一年
『うその社会心理』（共編著）、有斐閣、昭和五十七年
『地域文化の社会学』（編著）、世界思想社、昭和五十九年
『命題コレクション社会学』（共編著）、筑摩書房、昭和六十一年
『風俗の社会学』（編著）、世界思想社、昭和六十二年
『社会学入門』（共著）、放送大学教育振興会、昭和六十三年
『講座・転換期における人間―〇／文化とは』（共著）、岩波書店、平成元年
『人間科学への招待』（共編著）、有斐閣、平成四年
『現代文化を学ぶ人のために』（編著）、世界思想社、平成五年
『改訂版 社会学入門』（共著）、放送大学教育振興会、平成五年
『岩波講座・現代社会学』全二六巻（共編著）、岩波書店、平成七年―（刊行中）

〔訳書〕

- M & C・W・シェリフ『準拠集団』（共訳）、黎明書房、昭和四十三年
J・B・メーズ『われらみな犯罪者か』（共訳）、雄渾社、昭和四十四年
D・マーチンデール『現代社会学の系譜』上・下（共訳）、未来社、昭和五十年―五十二年
D・W・ブライス『日本人の生き方』（共訳）、岩波書店、昭和六十年
R・コリンズ『脱常識の社会学』（共訳）、岩波書店、平成四年

〔論文〕

- 『大衆文化―映画の社会学』仲村祥一編『現代社会学ノート』汐文社、昭和四十年
『〈恋愛結婚〉の誕生―知識社会学的考察』『ソシオロジ』第十二巻第四号、昭和四十一年
『大衆社会―その社会構造と精神構造』作田啓一・日高六郎編『社会学のすすめ』筑摩書房、昭和四十三年
『個人・集団・全体社会』（共著）作田啓一・日高六郎編『社会学のすすめ』筑摩書房、昭和四十三年
『マス・コミュニケーションにおける近畿圏』（共著）『近畿圏』鹿島出版会、昭和四十四年
『文化社会学的遊戯論の展開』『神戸商大人文論集』第六巻第一・第二合併号、昭和四十五年
『遊びの思想』『別冊経済評論』第七号、昭和四十六年
『青年の文化と生活意識』『社会学評論』第二十二巻第二号、昭和四十六年
『ゲーム論』仲村祥一編『現代娯楽の構造』文和書房、昭和四十八年
“Culture de la jeunesse dans le Japon d'aujourd'hui”, DIOGENE, No.84, 1973.

「H・D・ダンカンのコミュニケーション論」『年報社会心理学』第十五号、日本社会心理学会、昭和四十九年

「価値と制度―聖・俗理論をめぐって」『社会学講座2／社会学理論』東京大学出版会、昭和五十年

“The Loss of Meaning in Death”, *The Japan Interpreter*, Vol.9, No.3, 1975.

「日常生活における解釈の問題」仲村祥一編『社会学を学ぶ人のために』世界思想社、昭和五十年

「芸術社会学の形成―H・テースをめぐって」河野健二編『フランス・ブルジョワ社会の成立』岩波書店、昭和五十二年

“Interactions and Interpretations in Everyday Life”, *Studies in Symbolic Interaction*, Vol.3, JAI Press, 1980.

“The World of Games”, *Studies in the Humanities and Social Sciences*, vol.29, Osaka University, 1981.

「悪夢の選択―コンラッド『闇の奥』について」『現代社会学』、第八巻第二号、講談社、昭和五十六年

「文化のへ日常化へについて」『社会学評論』第三十四巻第二号、昭和五十八年

「生活世界とドラマ」塩原勉編『社会学の理論II―歴史的展開』日本放送出版協会、昭和六十年

“A Choice of Nightmares”, *Studies in Symbolic Interaction*, vol.6, JAI Press, 1985.

「コミュニケーションのはたらき」下河内稔編『脳力』を育てる』大阪書籍、昭和六十一年

「老いのイメージ」鶴見俊輔他編『老いの発見2／老いのパラダイム』、岩波書店、昭和六十一年

「スポーツと社会学理論」『体育・スポーツ社会学研究』第六号、平成元年

年

「情報化と生活意識の変化」野村雅一編『情報と日本人』ドメス出版、平成四年

「〈武道〉の発明」『ソシオロジ』第三十二巻第二号、平成四年

「スポーツ社会学の可能性」『スポーツ社会学研究』第一巻、日本スポーツ社会学会、平成五年

「武道のデイスクールにおける〈自然主義〉」浜口恵俊編『日本型モデルとは何か』新曜社、平成五年

「都市―装置とイメージ」大峯頭他編『地域のロゴス』世界思想社、平成五年

「うその社会的効用」木下富雄・吉田民人編『記号と情報の行動科学』福村出版、平成六年

他に、書評、エッセイ、辞典項目など。